月例研究報告

「ニーチェ対ワーグナー」

吉田　真

『ニーチェ対ワーグナー Nietzsche kontra Wagner』は1888年に書かれたニーチェ自身の著作のタイトルである。同年には『ワーグナーの場合 Der Fall Wagner』、ワーグナーの楽劇『神々の黄昏 Götterdämmerung』のタイトルをもじった『偶像の黄昏Götzendämmerung』のほか、重要な自伝的著作『この人を見よ Ecce homo』も書かれていて、ここでもワーグナーへの批判的な言及が目立つ。ニーチェはこの翌年トリノで卒倒し、以後1900年に亡くなるまで精神の回復を見ることがなかったので、すでに1883年に死去していたワーグナーにニーチェは最後までとり憑かれていたと言うことができる。そのワーグナーとはニーチェにとって何であったのかが研究課題となる。

ニーチェとワーグナーの出会いは1868年、当時ザクセン王国のライプツィヒでのこと。フリードリヒ・ニーチェはまだ24歳でライプツィヒ大学の学生だった。一方リヒャルト・ワーグナーは55歳、『トリスタンとイゾルデ』と『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を完成させ、４年前からバイエルン国王ルートヴィヒⅡ世の全面的な支援を受けるようになり、芸術家として絶頂期を迎えていた。この出会いは偶然のものではなく、かねてからワーグナーの作品に強い関心をもっていたニーチェが、ワーグナーの姉がライプツィヒ大学のブロックハウス教授夫人であることを知り、ワーグナーが里帰りをしてブロックハウス邸を訪れる機会を待っていたのである。

親子ほど年の離れた二人だったが（実際ワーグナーは、ニーチェが５歳のときに亡くなった父親と奇しくも同い年だった）、哲学者ショーペンハウアーの著作『意志と表象としての世界』についての話題で意気投合した。当時作曲をしていたニーチェは自分の作品をワーグナーに見てもらうという希望は叶わなかったが、ワーグナーの人柄に魅了され、その世界に惹きつけられてゆく。並外れた秀才だったニーチェは、大学を卒業してすぐスイスのバーゼル大学の教授に採用されたが、ワーグナーもまた当時はスイスのルツェルン郊外に住んでいたので、ニーチェは時間が許す限りトリープシェンのワーグナー邸を訪れ、ワーグナー夫妻も彼を歓迎した（ワーグナー夫人は作曲家リストの娘コージマで、ニーチェは彼女を密かに「アリアドネ」と呼んで崇拝するようになる）。このトリープシェンの日々はニーチェの生涯でほとんど唯一の幸福な時代だった。

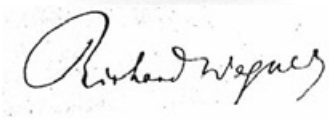
ニーチェはワーグナー礼賛の美学論文『悲劇の誕生』を書くことで思想家としての第一歩を印したが、それは同時に学問の世界との決別となり、やがて大学の職も辞することになる。ニーチェが古代ギリシア劇の再生として期待をかけたバイロイト祝祭での『ニーベルングの指環』四部作の初演は彼の理想とはかけ離れたものだった。これを境にニーチェは次第にワーグナーと距離を置き批判の度合いを強めていく。その批判は、愛するがゆえに否定せざるをえないという痛ましく容赦のない自己批判でもあった。

Richard Wagner

1813　ライプツィヒに生まれる
　　父フリードリヒ死去
1814　母、俳優のガイアーと再婚
　　ドレスデンに転居
1821　養父ガイアー死去
1831　ライプツィヒ大学入学
1842　『リエンツィ』初演
1843　『さまよえるオランダ人』初演
　　ザクセン宮廷劇場楽長になる
1844
1845　『タンホイザー』初演
1849　ドレスデン革命によりチューリヒに亡命
1850　『ローエングリン』初演
1864　バイエルン国王ルートヴィヒII世と会う
1865　『トリスタンとイゾルデ』初演
1868　『ニュルンベルクの
　　マイスタージンガー』初演
1869　『ラインの黄金』初演

1870　『ワルキューレ』初演
1872　トリプシェンからバイロイトに転居
1876　『ニーベルングの指環』四部作初演
1878
1879
1882　『パルジファル』初演
1883　ヴェネツィアで死去（69歳）
1883～85
1886
1888

1889
1897
1900



Friedrich Nietzsche

ライプツィヒ近郊レッケン村で生まれる

父死去
ナウムブルクに転居
ボン大学入学
ライプツィヒ大学に移る
ライプツィヒで初めてワーグナーと会う

バーゼル大学員外教授になる（翌年正教授）
トリプシェンのワーグナー邸を初めて訪問
普仏戦争に看護兵として従軍
『悲劇の誕生』
『バイロイトのリヒャルト・ワーグナー』
『人間的な、あまりに人間的な』
バーゼル大学を退職
『悦ばしき学問』

『ツァラトゥストラかく語りき』
『善悪の彼岸』
『ワーグナーの場合』『偶像の黄昏』
『反キリスト者』『この人を見よ』
『ニーチェ対ワーグナー』
トリノで卒倒
母死去、妹とヴァイマルに転居
ヴァイマルで死去（55歳）